

令和5年度

学校評価



長野県野沢南高等学校全日制

2023年度 学校目標

学 校 教 育 目 標

1. 民主社会における正しい判断力と道義心を養う。
2. 教養を高め心身を鍛えて個性を伸ばす。
3. 適切な職業観を培う。

学校重点目標（中・長期的目標）

1. 生活習慣を確立し、自主的・自律的に行動できる生徒を育む。
2. 学習・クラブ・生徒会活動を通じ、自己の発見や開発のできる生徒を育む。
3. 個々に適したキャリア教育を推進し、意欲的に学習に取り組む生徒を育む。
4. 命と人権を尊び、豊かな人間性を育む。
5. 地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。

今 年 度 の 重 点 目 標

- (1) 生徒の学習環境の改善に努めるとともに、日々の清掃を通じて生徒自らも環境整備に取り組む意識を育てる。
- (2) HPの定期的な更新や「野沢南だより」等の発信を通じて、地域への広報活動を充実させる。
- (3) ICTを効果的に活用しながら、生徒の学習意欲を刺激し、主体的に取り組めるように授業研究・改善を進め、学力向上を図る。
- (4) 人権意識を高め、いじめ・体罰のない安全で安心な学校づくりを進める。

【内部評価用】

令和 5 年 度 【 1 学 年 】 評 価 個 票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 「相手の意見を尊重できる。」 ② 「挨拶ができて感謝の気持ちを伝えられる。」 ③ 「整理整頓ができる。」 ④ 「その場にふさわしい服装ができる。」TPOを守る。 ⑤ 「自分でスケジュールの管理ができる。」 ⑥ 「時間を守れる。」 ⑦ 「節度を守り携帯の使用ができる」		①②③はかなりできているように感じられる。服装においては制服がない中で、自分たちでその場にあった服装を考えられているようである。自律、時間をまもること、また節度を守った携帯の管理が来年に向けた課題である。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	相手の意見を尊重できる。	自分と違う意見の違う人に出会ったとき相手の立場を考え、新しい考え方を相手から学べるか。	人の意見を素直に聞くことができる。	○		
2	挨拶ができて感謝の気持ちを伝えられる。	相手に対して、心を向けて挨拶をできるか。	挨拶がしっかりできる。	○		
3	整理整頓ができる。	自分の身の回りの物をしっかりと自己管理ができている。	自分の持ち物の整理ができていない。	○		
4	その場にふさわしい服装ができる。」TPOを守る。	あらゆる場面においてそれがどのような場所、状況であるかを判断し、そこにふさわしい服飾層を身に着けられる。	学校としての課題はあるが、行事等における服装など自分たちで考え、それに応じた対応ができつつある。		○	
5	自分でスケジュールの管理ができる。	学校何の行事等において必要な準備、計画を立てて行うことができる。	計画性を持って学習ができてほしい。		○	
6	時間を守れる。	授業開始五分前には準備を整え、始業ベルとともに授業が始められるようにしておく。また提出物等を決められて日時に提出ができるようにしておく。	朝の遅刻が増えており指導を続けていきたい。		○	
7	節度を守り携帯の使用ができる	授業中、および休み時間において、節度を守った携帯電話の使用ができる。際限なくゲームに没頭するなどの状況が内容に指導する。等の状況がないように指導する。	なかなか管理できていないが授業中の携帯の使用は管理できているようである。		○	

【内部評価用】

NO. 2

令和 5 年 度 【 2 学 年 】 評 価 個 票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
⑧ 基本的な生活習慣と学習習慣の維持、更に向上させ、時間で行動できる責任感ある生徒。 ⑨ 基礎的、基本的な知識の習得と基礎学力を基に、発展的、応用的な学習を進められるように努める。 ⑩ 何事にも前向きに挑む姿勢と自己肯定感、仲間と協力し主体的に粘り強く活動する姿勢を伸ばし、学習活動、清掃活動、委員会活動を活性化する。 ⑪ 自己や社会の理解に努め、自分が将来どのように社会に貢献できるかを考える姿勢を育み、職業研究を更に進める。		遅刻する生徒もいたが、平日は概ね生活習慣については問題なかった。クラブ活動等が優先になり学習の取り組みがもう一つである。基礎的な知識の習得にももう少し繰り返しおこないたい。 仲間との協調性は大変良い。清掃活動や委員会活動の取り組みはよい。総合探究の授業などで自分の将来必要になることや社会に貢献できることについても活動を深めている。今後、さらに職業研究や進路について研究を深め、自分自身の道を見つけてもらいたい。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	「基本的な生活習慣と学習習慣の確立」	日々の予習、授業、復習を通して学力の定着を図り、校外での評価試験で常に前回より良い評価を得るよう努力させることができたか。	授業はまじめに取り組むことができるが、予習・復習などが疎かになる。今後、日々の家庭での学習も行い学力の定着を図りたい。		○	
2	「発展的、応用的な学習」	既習単元を中心に、模試や入試問題等に取り組ませる事が出来たか。	模試など復習し、見直すことで基本的な問題を攻略し、応用に挑戦させたい。		○	
3	「前向きに挑む姿勢と自己肯定感」	課題の評価、SHR, 日常の学校生活の中で、積極的に生徒に声がけ等の働きかけが出来たか。	クラブ活動や生徒会活動など概ね前向きに活動できている。	○		
4	「様々な活動への積極的な参加」	コロナ禍をにらみ、大学見学、ボランティア、1日看護体験など、様々なことに出来る限り関心を持たせ、参加を促すことができたか。	前向きに取り組む生徒もいるが、まだ取り組みが出来ていない生徒もいる。進路指導などを活用し生徒に何事も積極的に取り組むように促したい。		○	
5	「スマートフォンの正しい利用」	節度を持ったスマートフォンの使用ができるか。発言、発信に責任をもてるか、注意喚起できたか。	スマートフォンについては、依存している生徒が多い。2年になってもゲームで遊んでいる生徒が多数見受けられた。今後、生徒一人ひとりが自覚を持ち正しい利用に心がけるようにさせたい。		○	
6	「より良い高校生活の確立」	スマホのアプリの活用も含め計画、実行、振り返りをさせ、より良い高校生活の確立を目指すことができたか。	スマホの使い方には大分慣れてきたようであるが、活用方法をもう一度確認させ、役に立つ使い方を考えさせたい。		○	

【内部評価用】

令和 5 年 度 【 3 学 年 】 評 価 個 票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)		総合評価		
⑫ 進路実現のために努力を継続できる生徒。 ⑬ 礼儀正しくルールや規範を守る意識の高い生徒。 ⑭ スマートフォンの適切な使用のできる生徒。 ⑮ 時間と期限を遵守できる生徒。 ⑯ 率先して挨拶のできる生徒。		① 推薦で決定する生徒が多かった。 ② 概ねできた。 ③ ゲーム、YouTube 使用者は多かった。 ④ 概ねできた。 ⑤ 素晴らしくできた。		A		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	進路実現の為に努力を継続できる。	進路目標を明確にし、進路実現の為に努力を継続できたか。	進路実現のための学習努力を継続できた生徒が多かった。例年と比較して指定校推薦が多く、3年間真面目に過ごした生徒が早めに進路実現できた。		○	
2	礼儀正しくルールやモラルを守る意識を高める。	お互いを尊重する意識を当たり前前に持ち続けられたか。	概ねできていた。	○		
3	スマートフォンの適切な使用。	節度を持った使用と、発信に責任を持ち、不適切使用に注意喚起できたか。	スマホは現代社会ではほぼ必需品であり、授業、連絡手段など利用するケースが多くゲーム、ユーチューブなど不適切使用もあったがトラブルはなかった。		○	
4	時間と期限を遵守。	5分前行動、提出物の期限厳守ができたか。	時間、期限にルーズな生徒はいたが、概ねきちんとできていた。	○		
5	率先して挨拶。	日常生活での挨拶が率先してできたか。	本校の生徒は他校と比較すると素晴らしい。	○		

【内部評価用】

NO. 4

令和5年度【学校運営】領域(教務係)評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 生徒の学習環境の維持・改善に努めるとともに、危機管理を行い、想定されるさまざまな災害・事故・事件に備える。 ② 行事や会議等の企画・運営に関し、校内の各部署と綿密な連携をとり、より効率的で円滑な学校運営を図る。 ③ 学校案内や「野沢南だより」Web版の発信、体験入学等を通じ広報活動をより充実させ、開かれた学校づくりを進める。		① 生徒の学習環境の維持、改善に努めることができた。災害時における緊急連絡先一覧は現在作成中である。 ② 行事や会議等の企画・運営を、各部署と連携して円滑に行うことができた。 ③ HP や体験入学を通じて、おおむね本校の活動を地域や中学生に伝えることができた。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	危機管理 防災訓練の運営	危機管理を進め、災害、事故、事件に対する備えができたか。	災害、事故、事件に対する備えを進めることができたが、緊急連絡先一覧を製作中である。		○	
2	時間割、行事計画、日課等の検討、運用	立案、運用を適切に行い、生徒の学習環境の改善につなげることができたか。	時間割の、行事計画の運営を円滑に行うことができた。		○	
3	職員会議、成績会議、朝会の企画・運営	会議を適切に企画、運営できたか。	会議を適切に企画、運営することができた。	○		
4	入学式、卒業式、始業式、終業式の運営	関係部署と協力し、効率的で円滑な運営ができたか。	改善すべき点はあるが、おおむね円滑に運営することができた。		○	
5	体験入学、公開授業の企画運営	PR活動・渉外活動を含め、企画、運営を適切に行うことができたか。	計画通りに準備を進め、当日も滞りなく運営することができた。	○		
6	校務支援システムの適切な運用	校務支援システムを適切に活用し、日常的な成績、出欠管理を適切に行えたか。	おおむね良好に活用できたが、授業交換等来年度に向けてさらに工夫していきたい。		○	
7	「野沢南だより」の発信	内容において充実を図る等の工夫を重ねることができたか。また、発信を通じて広報活動をさらに充実させることができたか。	今年度はHPのみでの掲載になったが、第6号まで発信することができた。さらに野沢南高校の魅力が伝わるように、内容を充実させていきたい。	○		

【内部評価用】

NO. 5

令和5年度【進路学習指導】領域(図書・視聴覚係)評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 教科連携・学習支援を強化する。 ② 図書委員会活動を活性化する。 ③ 地域に開かれた図書館づくりを行う。 ④ 「朝の読書」の充実を図る。 ⑤ 芸術鑑賞の企画・運営を、校内の各部署と連携と取りながら実施する。 ⑥ 視聴覚機材を各部署が充実して使用できるよう、維持管理をする。		○委員会活動については、書店での図書選定、当番活動、デジタルツールを使った行事案内などの情報提供に取り組めた。 ○総合的探究を中心に適切な資料提供を行うことができた。 ○朝読書については形骸化しているところがあり、見直す必要がある。 ○演劇に親しみを持ってもらうことができた。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	教科との連携	各教科との連携をスムーズに行い、資料等の情報を提供することができたか。	総探を中心に適切な資料提供を行うことができた。授業利用は概算で100時間超となった。	○		
2	生徒の学習支援	生徒の主体的な学習を支援し、情報機器等の利用に新たな活路を見出させることができたか。	図書館での授業における端末活用について支援することができた。また、校内で活用頻度の低い電子機器を館内に設置すべく動いている。	○		
3	委員会活動	当番活動を始めとして、広報・選書・調査等の活動に積極的に取り組めたか。	委員生徒による書店での図書選定、当番活動、デジタルツールを使った行事案内などの情報提供に取り組めた。	○		
4	地域との連携	学外の社会教育施設や学習支援組織と連携し、情報共有を図ることができたか。	佐久地域における関連機関との協働が増え、校内および地域双方の教育活動を支援することができた。	○		
5	朝読書及び読書指導	生徒が「朝の読書」を通じ、新たな知識との出会いを楽しむ姿勢をつくり得たか。	「朝の読書」開始時間以降に登校する生徒が多い。形骸化しており、見直す必要がある。		○	
6	レファレンス・相互貸借	利用者からの要望に対し、他館との連携などにより、資料の提供ができたか。	購入以外に公共図書館および他校からの借受により、希望する資料の提供ができた。	○		
7	視聴覚・情報機器の管理	機器の管理・保全ができたか。	機材の管理が十分でなく、生徒や職員に迷惑をかけてしまうことがあった。			○
8	芸術鑑賞の運営	生徒の関心と芸術的感性を高める企画であったか。	芸術鑑賞では演劇を鑑賞してもらい、平和・戦争について生徒の関心を深めることができた。	○		

【内部評価用】

NO 6

令和5年度【進路学習指導】領域（進路指導）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 進路実現に向けた主体的な活動を支援する ② 多様な入試に対する受験指導を行う ③ 保護者から進路指導への理解と協力を得る ④ 職員の間で進路情報の共有を図る ⑤ 校外模試に基づく受験指導を細目に行う ⑥ 総合的な探究の時間係や鈴蘭アカデミーとの連携及び協力を図る		今年度は新型コロナウイルスの影響の軽減により、地域との連携やようこそ先輩(1月末)が本格開催可能となり、また大学受験を控えた3年生の進路指導を現実に則した対応にするなど、工夫できた。また一部対応に苦慮する面はあったが、年度計画は概ね実施できた。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	適切な進路指導	進路計画に基づき系統的な進路指導ができたか。	1・2年では生徒の学力実態に鑑み、3学期に年度計画の変更(模試日程の増加等)を行うなど必要に応じた柔軟な対応ができた。		○	
2	学力の向上 (自立学習支援)	学力向上に向け学習への自立支援ができたか。	高大接続事業の学習ツールを使い、学力向上に向けた学習及び進路指導ができた。特に1年生においては、進路研修を大胆に実施できた。		○	
3	学校推薦型選抜等の組織的指導	丁寧な指導ができたか。	当該生徒に必ず指導職員が付き、小論文、面接、プレゼン、口頭試問などの指導を行った。指導上、複数の職員で指導内容を分担連携するなど、組織的な指導ができた。	○		
4	保護者との連携	進路指導への理解協力を得られたか。	保護者説明会の実施や受験関連の通知発行等を通して全体かつ個人的な理解を求め生徒への指導に当たることができた。	○		
5	情報の収集と共有	進路情報を共有し的確な指導ができたか。	多種多様な進路情報を取捨選択して、生徒及び担任並びに係職員等の間で情報の共有を図った。		○	
6	一般選抜の進学指導	模試の分析と継続的な受験指導ができたか。	進学希望の生徒に対して、大学受験の体系的な知識を教えながら、志望校を絞り込む指導を継続的に行った。		○	
7	勤労観・職業観の育成	キャリア係と連携できたか。	ようこそ先輩など、その趣旨を係及び職員が理解して支援することができた。		○	

【内部評価用】

令和5年度【進路学習指導】領域（総合探究）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価		
① 年間指導計画を立てて授業を展開し、適切な評価を行う。 ② 分野別テーマ別探究活動を通して、継続的に学び続ける姿勢を育成する。 ③ 進路指導係（キャリア教育）との連携を図る。		佐久市市民活動サポートセンター（さくさぼ）の協力を得て、生徒を学校外の団体とつなぐことができた。 総合的な学習の時間→総合的な探究の時間と変わっているにもかかわらず、業務内容が整理されていない状況を来年度にむけて改善したい。			B		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C	
1	授業計画の立案、実施、評価	授業計画を元に授業を展開し、適切な評価ができたか。	現在までは年度当初の計画通り進んでいる。評価や発表についてはこれから実施。		○		
2	各分掌との連携	進路指導係（キャリア教育）と連携を図りながら指導を行えたか。	連携したものの、「総合探究＝キャリア教育」ではなくなってきたことを感じた。来年度は評価項目を見直したい。			○	
3	外部との連携	分野別テーマ別探究活動にあたり、外部団体と連携できたか。	佐久市市民活動サポートセンター（さくさぼ）と積極的な連携を取ることができた。	○			

【内部評価用】

令和5年度【キャリア教育】領域（キャリア教育）

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 生徒の将来の自己実現のために必要な人生観を育む援助を行う。 ② 生徒自身の自己理解を深める援助を行う。 ③ 体験活動等をコーディネートする。		支援体制を学校行事としての一斉指導から、個人が必要とする支援に切り替えた。生徒個々のニーズにより深く支援ができた。 今後は、主体性がない生徒に対してどのような支援をするかが課題である。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	自己理解・社会理解を深める	各種行事への参加を通じて、生徒の自己理解の深化を援助できたか。	看護師体験、福祉体験、幼稚園・保育園体験、中込小学校現場体験など、進路に応じた企画に対して延べ93名の生徒を送り出すことができた。		○	
2	キャリアパスポートの取り組み	定期的に自己を振り返ることで目標設定を見直す援助ができたか。	紙への記入からクラウド入力に変更した。この方法が浸透すれば生徒の活動を全教員が把握できるようになる。 ただ、生徒自らが記録を残す習慣を定着させるには時間がかかると考えている。		○	
3	外部機関等との連携	外部機関や地域との連携を深め、生徒の自己理解や社会理解の援助ができたか。	野沢地域包括支援センターや医療社会法人恵仁会に協力いただき、ボランティア活動の実績を積むことができた。来年度は佐久市環境政策課との連携も模索している。	○		

【内部評価用】

NO. 9

令和5年度【生徒指導】領域(人権平和教育係)評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
正しい認識の基盤となる科学的な学習と想像力とが、「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去」することに繋がることを学ぶ。また、「共生」社会を実現するための具体的な行動の仕方について認識を深めさせる。		今年度は、「参政権」を入り口として、広く「権利」ということについて考えを深めることを目標にして取り組んだ。「18歳選挙権」「18歳成人」という時代の「主権者」を育成することを目標に取り組んでいる。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	全校人権HRの実施及び前後の取り組み	人権問題についての正しい理解と認識が深まったか。全校人権HRの前後で、必要な段階を踏むことか。生徒にとって、「自分自身の問題」として引き付けることができるテーマを選ぶことができたか。	「参政権」を獲得するまでの歴史を確認する中で、「権利とは、最初から保障されていたものではなく、獲得されてきたものだ。」という大前提に立って、「選挙権」「参政権」をどう行使すべきかという流れで構成した。	○		
2	職員研修の実施	人権教育に携わる指導者として、教材と教案に関する理解を深めることが出来たか。	「全校人権HR」を実施するに先立って、職員会の場で資料の読み合わせ等を行い、理解を深めた。また、新任職員については、地域の研修会への参加を促している。	○		

【内部評価用】

令和5年度【生徒指導】領域（生徒会係）評価個票

今年度の重点目標			領域の評価(成果と課題)	総合評価		
① 計画力・企画力・指導力・調整力を持つ執行部を育成する。 ② 各委員会の活性化を図り、生徒一人一人が委員として自覚を持ち、自主的に行動できるようにする。 ③ 様々な活動を学校内外に発信する。 ④ 今後の自主活動のあり方について探究する。			旧執行部については、新型コロナウイルス感染症が5類になり、感染対策を緩和させ、昨年までとは違う新たな形で行事を運営することができた。コロナ前の行事運営に近づけることができ、全校生徒より賞賛を得ることができた。新執行部については、全校生徒が関わることのできる生徒会づくりを目標にしており、その達成を促す指導をしていくことが課題である。	A		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	各行事の企画・運営	設定時期・内容・運営が適切であったか。	コロナ前の行事運営を目指し、コロナ以前の資料を確認しながら、計画を進めていったため、準備が滞る場面もあった。しかし、顧問との話し合いを重ねたり、慎重に審議しながら、進めていったため、企画内容も、運営についても十分評価出来るものとなった。	○		
2	執行部指導	役員会・執行部会の機能の充実、自主性・創造性の醸成がはかられたか。	役員会、執行部会については定例会を実施するとともに、必要があれば臨時で実施し、意見交換の場を多く持った。しかし、要点が明確でなく、次へつながる内容でない時もあり、内容の充実という面からは不十分であったため、役員会の中で内容をまとめさせるよう指導していく。		○	
3	委員会活動の活性化	委員長を中心に、多くの委員が活動したか。	委員会内の連携がしっかりとれ、充実した委員会活動ができたところが多かったため、今後も同様に活動できるよう指導していく。	○		
4	委員会活動の連携	委員会間、生徒間、顧問間の連携がはかられたか。	それぞれの委員会が単独で活動していることが多く、委員会間の連携という面では不十分であった。しかし、文化祭へ向けての準備期間においては、各所における連携は十分にはかられた。		○	
5	クラブ活動の活性化	加入・活動人数の増加が図られたか。 充実した活動ができたか。	各クラブ顧問の先生方のご指導のもと、例年通り活動することができた。加入・活動人数は昨年度並みであった。		○	
6	文化祭の質的向上	より高いテーマや目標を掲げて準備できたか。学校内外から評価が得られたか。	一般公開、模擬店を再開することができ、活気づいた文化祭となった。また、合唱コンクールも学年ごとの入れ替え制にはなったが、通常に近い形で行うことができた。全体的に生徒、保護者にとっても満足度の高い文化祭を開催することができた。	○		
7	地域への貢献	ボランティア活動や地域清掃等を通じて地域への貢献がはかられたか。	生徒会執行部の生徒中心に、定時制生徒会と連携し、2回の地域清掃を行うことができた。学生ボランティアなどにも積極的に活動できるよう支援していく。	○		

令和5年度【生徒指導】領域（生徒指導係）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 学校内外に於ける安全を確保する。 ② 生徒の自律的生活習慣の確立をサポートする。 ③ 生徒の自治的な活動を支援する。 ④ 家庭及び地域との連携をはかり、学校内外での事例に対し速やかに対応できる体制を整える。 ⑤ 生徒集団の意識を高めるための投げかけ・働きかけを意識的に行う。		「学校内外における安全の確保」という中心的な課題を実現するアプローチとして、生徒一人一人の安全意識の向上と主体的に考え、判断しようとする姿勢を培うべく、機会あるごとに注意喚起と投げかけを行ってきた。右肩上がりに意識が高まっていくという訳にはいかないが、今後ともねばり強く働きかけていきたい。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	風紀指導	計画通り(年3回)風紀指導を実施したか。	予定通り実施した。多少の緩みも見えるが、全体的に落ち着いている。	○		
2	交通安全指導	春・秋計2回の交通安全街頭指導、交通安全教室、自転車の安全運転・原付安全講習会を実施し、交通安全に対する意識を高めることができたか。	「交通安全週間」「交通安全HR」等予定通り実施したが、取り組み期間中は行動に変化が見られるが、取り組み期間が終わると緩む傾向があった。交通事故も9件と昨年度を上回り、一歩間違えばというケースもあった。		○	
3	生徒自ら安全を守る主体性・安全意識を高める	交通安全に限らず、身の回りにおける危険を自ら回避する意識をことあるごとに喚起する。	始業式・終業式等の機会と生徒指導通信を使って、事故等が発生する度に注意喚起を繰り返している。しかし、なかなか意識が変わるところまで行かない。		○	
4	生徒集団の意識を高めるための投げかけ	生徒指導通信等を活用し、様々な問題を生徒に発信をし、各自の問題として考え、解決できるように努めたか。生徒会委員会と連携が取れたか。	生徒指導通信や全校放送を用いて問題提起及び注意喚起を行ってきた。生徒会とも、日常的な活動で連携する以外に、意見交換の機会が設定され有意義であった。一方的な働きかけではなくコミュニケーションを図りつつ意識を高めていくことは有効だと思われる。	○		
5	指導の公明性	問題行動等、生徒への指導において、その根拠・手続きなどが十分に生徒・保護者に説明されているか。	今年度、所謂反省指導という形の指導はなかったが、それ未満の指導はあった。その都に丁寧に説明を行っている。	○		
6	職員連携体制の確保	目的と情報を共有しつつ、有機的な連携がとれる全職員の協力体制と意識の統一を図ることができたか。	係の構成がそれぞれの学年会と連続しているため、問題なく意識の統一は図られている。	○		
7	保健係、生徒支援委員会等の連携	生徒の心の問題やいじめの根絶等について、保健係や生徒支援委員会等校内の諸機関と十分に連携がはかれたか。	今年度、いじめ事案またはそれに近い事案として生徒指導係が動くケースがなかったため、特に連携することはなかった。		○	

【内部評価用】

NO. 12

令和5年度【学校運営】領域（特別支援教育係）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
①特別な支援を必要とする生徒の支援計画、支援体制の充実を図る。 ②職員向けに発達障がい等の研修会を企画し、障がいについての知識理解を深める。		支援が必要な生徒をSCや高校巡回相談員等と適切につなぎ、対応することができた。主に生徒と関わる担任や顧問などの教員の困り感を教員間で情報共有し、校内全体で配慮する環境作りが課題である。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	校内の特別支援教育体制の充実。支援体制についての研究及び情報収集	高等学校特別支援教育研究会で学んだ内容を基に、支援計画、支援体制について具現化することができたか。	上田養護学校の高校巡回相談員に定期的に来校して生徒相談に対応する体制を作ることができた。また特別支援教育の支援マップも作成することができた。マップを校内全体で共有し、外部の支援機関について教員間で知識をより深めることが課題である。	○		
2	実態把握のための情報収集、職員間での連絡調整、支援会議の連絡調整・企画・運営	中学校から情報収集、保護者からの連絡シートによる情報収集、クラス担任、教科担任をはじめ職員からの聞き取り調査による実態把握を行う。定期的に生徒支援委員会を開き、生徒の情報を共有し、生徒支援（相談）について積極的に対策を講じ、解決に向けた取り組みができたか。	新入生について、3月の中高連絡会で担任団が聞き取りした情報をもとに、5月の中高連絡会でも情報の聞き取りを試みたが、必要な情報を全て得ることはできず、中高特コ間の連携が今後の課題である。 在校生については、アセスの結果も参考にしながら、保健係と協力して困り感のある生徒の把握に努め、SCや高校巡回相談員、思春期相談等につないだり、校内では支援関係者会、生徒支援委員会等で対策を講じることができた。相談室利用や座席の配慮など、生徒がより校内で配慮を受けられる具体策の実現が今後の課題である。	○		
3	発達障がいの研修会の計画	職員が参加しやすい研修会が計画できたか。また、研修会を行うことによって職員の知識、理解を深めることができたか。	10月に東信地区の高校巡回相談員の先生に講演会を実施していただき、ASD生徒の支援について理解を深めることができた。不参加だった教員もおおり、学校全体として特別支援教育への理解・実践を促進していくことが今後の課題である。	○		

【内部評価用】

令和 5 年度【保健・環境】領域（整美係）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 校舎内外の清掃・美化 ② 委員会活動の活性化		①地域清掃として生徒会と協力し、清掃・美化に取り組んだ。 ②分別にも力を入れ、部室のゴミ捨ても週一回は行うようにした。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	校舎内外の清掃・美化 ・清掃分担は監督しやすい場所にするよう配慮し、通年、清掃が日常活動として定着できるようにする。 ・用具庫が機能的に使用できる状態を維持し、必要なものは購入する。	清掃は日常活動として定着しているか。 用具庫を機能的に使用できるように維持しているか。	日々の清掃はもちろん、行事前なども普段より力を入れて清掃するように声かけを行なった。来年度以降は、行事前に力を入れて清掃しなくても、日々の清掃で十分きれいになるように声かけしていきたい。 用具庫も足りないものの報告を受け、補充したりした。	○		
2	委員会活動の活性化 ・日常清掃を最も重視し、自分たちのクラスの分担の用具、清掃状況を点検する。また、ゴミの分別を徹底する。 ・生徒会執行部とともに、校外清掃を実施する。	用具の点検整備、モップ洗い、ゴミステーション当番などしっかりと活動しているか。 計画に従って校外清掃が実施できたか。	ゴミの分別に関して、まだまだ甘い部分があるので、さらに徹底できるように、委員会として声かけしていきたい。地域清掃では生徒会執行部と協力し、計画的に行うことが出来た。		○	

【内部評価用】

令和5年度【学校運営】領域（保健係）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 生徒が心身ともに健康な身体で、安心安全な学校生活を送ることができるよう支援する。 ② 生徒支援委員会や特別支援教育コーディネーター等と連携をはかり、チームで細やかに健康相談が実施できるようにする。		新型コロナウイルス感染症が5月8日より5類に分類され感染症の集団発生の心配がされていたが、本校では行事の時も日々注意がされ学級閉鎖等なく1年を終えることができた。年明け他校より学級閉鎖の話を聞くが、職員・生徒の意識が高く心配ない。 生徒支援についても上田養護学校久保田先生に入っただき支援が手厚くなった。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	基本的な生活習慣の指導	睡眠、食事、服装、薬に頼らないなど、生活習慣の改善がみられたか。	ストレスによる相談がだいぶ増えてきた。新型コロナウイルス感染症の不安から欠席していた生徒も学校生活を送らなければならない状況でコミュニケーションが苦手な様子であり次年度に課題にしたい。		○	
2	健康・安全意識の向上	定期健康診断を全員が受診したか。 必要に応じて専門医の受診を受けたか。 誰でも安心して利用できる保健室であったか。 生徒の観察を通じて、その健康状態を正しく把握できたか。 感染症の予防に努め感染拡大は防げたか。 職員・生徒への講習会を実施できたか。	今年度も新型コロナウイルス感染症予防の観点から健康診断や検診等の対応に努めてきた。次年度も継続予定だが、測定に関しては以前に戻し職員の負担軽減を図りたい。 生徒保健委員会を通じ感染症対策や熱中症対策に努めた。 次年度はAED講習会を開催したい。	○		.
3	生徒支援委員会、いじめ防止対策委員会等との連携、充実	保健室や生徒支援委員会・特別支援教育支援コーディネーター等と情報の共有をし、細やかに対応することができたか。 委員会と連携しながらチームで対応することができたか。	定期的に係会を持ち各学年からの生徒情報や保健室での様子等係内で情報共有に努めた。 上田養護学校の久保田先生の教育巡回相談を利用し、複数の生徒が進路や学校生活を送るにあたって保護者を含めアドバイスをいただいで学校生活を送れるよう支援している。また、保健所や医療機関と連携して生徒の支援もしている。	○		

【内部評価用】

NO. 15

令和5年度【涉外】領域（PTA・厚生）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
○コロナ以前の活動再開を目指す。		新型コロナの5類感染症移行に伴い、定期総会や研修旅行などを4年ぶりに実施でき、コロナ以前の状況に近い活動を行うことができた。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	PTA総会	総会・学年PTA・学級PTAへの参加態勢が十分であったか。	対面での定期総会を実施することができた。	○		
2	大学見学 (PTA研修旅行)	会員の進路指導への理解を深めることができたか。	総会同様、4年ぶりに実施することができ好評であった。	○		
3	PTA会報	活動状況を会員に伝えることができたか。	計画通り、年2回発行することができた。(後期号は3/1配布予定)	○		
4	職員厚生	職員相互の親睦を深めることができたか。	感染症を鑑み自粛した。		○	

【内部評価用】

NO. 16

令和5年度【渉外】領域（同窓会）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 総会、理事会、等の会合が問題なく進められるように、同窓会と職員の連携を図る。 ② 同窓会からの配布物、情報等が教員団に速やかに伝わるように配慮する。		① 同窓会と職員の連携が図れた。 ② 同窓会からの配布物、情報等を職員へ速やかに伝えられた。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	活動計画の作成	同窓会、生徒、職員が活躍できる計画が立てられたか。	活動計画がしっかり立てられた。	○		
2	理事会・支部長会の準備、補助、施設予約等を進める	事前の計画、準備等において理事会・支部会等の運営の積極的に関わられたか。職員サイドと同窓会の橋渡しが円滑に行えたか。	理事会・支部会等の運営に積極的に関わられた。	○		
3	総会の準備・運営。	会員、及び職員にしっかりとした情報伝達の間としての総会を提供できたか。記念事業を円滑に進められたか。	総会の準備運営・情報伝達が迅速にできた。		○	
4	会報作成への取り組み	校内の様子を速やかにとりまとめて、原稿を会報編集者に提供できたか。	同窓会報原稿を速やかに提供できた。		○	
5	「発展させる会」との連携	生徒と同窓会員が積極的に参加し、意見交換ができる場を提供できたか。新しい高校作りへ向けた意見集約ができたか。	校内にて無事執り行えた。	○		